

日本水環境学会 COVID-19 タスクフォース設立のお知らせ

会長 松井佳彦

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行により、200以上の国と地域において350万人以上の感染者と約25万人の死者が報告されています（2020年5月6日付WHO報告）。国内においても3月に発令された緊急事態宣言が5月末まで延長され、休業要請や外出自粛等により我々の健康のみならず経済にまで多大な影響が及んでいます。

水環境分野においては、オランダ、オーストラリア、フランスなどにおいて下水からの新型コロナウイルスの検出が次々と報告されており、世界各国において調査研究の動きが急速に広がっています。下水中の新型コロナウイルスは感染能力を失っていると一般的には考えられていますが、下水中濃度に関するデータは、上下水道・水環境における潜在的リスク管理の基礎情報となるだけでなく、下水道流域における流行状況を把握する疫学調査情報として活用することが期待されます。そのための調査研究や文献調査によって国内外における情報収集と発信を行うことは、このような世界的危機において本学会が果たすべき重要な役目と考えます。

以上の状況を鑑みて、水環境分野における新型コロナウイルス感染症に関連する学術的研究の積極的推進と科学的根拠に基づく情報発信を目的として2020年5月5日に「日本水環境学会 COVID-19 タスクフォース」を設立致しましたので、ここにお知らせ致します。本タスクフォースの活動を通じて、水環境分野における新型コロナウイルス感染症および将来の新興感染症に対応した新しい社会の構築に貢献することを目指します。

日本水環境学会 COVID-19 タスクフォース

<ミッション>

「下水および水環境中の新型コロナウイルスの検出・除去・リスク管理に関する国内外の情報収集・発信」を目的として、次の活動を行う。

- 海外の調査報告や関連情報の収集
- 国内における調査研究の連携支援と情報交換プラットフォームの提供
- IWA COVID-19 Taskforce との連携と情報交換
- 関連情報の学会員および産官民ステークホルダーへの情報発信
- 国内研究成果の積極的な海外発信
- 下水中の新型コロナウイルス検出手法の標準化に向けた調査研究

<構成メンバー>

代表： 大村達夫（東北大学）

幹事長：本多了（金沢大学）

幹事： 井原 賢（京都大学）、北島正章（北海道大学）、佐野大輔（東北大学）、原本英司（山梨大学）、渡部徹（山形大学）

片山浩之（東京大学）、田中宏明（京都大学）、端昭彦（富山県立大学）、藤木修（京都大学）、古米弘明（東京大学）、村上道夫（福島県立医科大学）、岡本誠一郎（国土交通省国土技術政策総合研究所）、諏訪守（土木研究所）、真砂佳史（国立環境研究所）、三浦尚之（国立保健医療科学院）

<問い合わせ先>

幹事長 本多 了（金沢大学 地球社会基盤学系）

電子メール：rhonda@se.kanazawa-u.ac.jp

作成：2020年5月15日

修正：2020年6月23日